徳島県南部における共同経営計画（並行モード連携モデル）

四国運輸局

共同経営計画策定の背景

- 徳島県南部地域の交通サービスは必ずしも十分でない状態であったため、徳島バスが「室戸・生見・阿南大阪線」の一般道を運行する一部区間（阿南駅～甲浦間）において途中乗降を可能とし、地域旅客運送サービスを維持してきた。
- 地域旅客運送サービスの維持が重要課題となる中、JR四国と徳島バスの運賃体系が異なっており、利用者目線での利便性向上が問題となっていた。

国土地理院ウェブサイト「地理院地図（電子国土Web）」を加工して作成

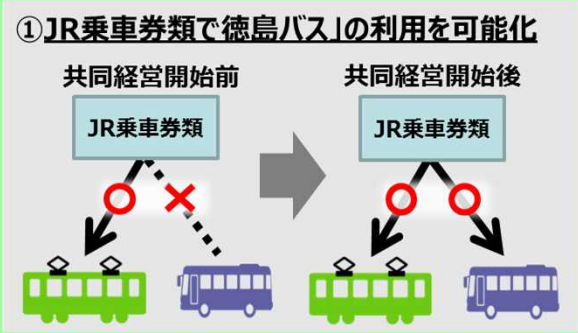
計画の概要

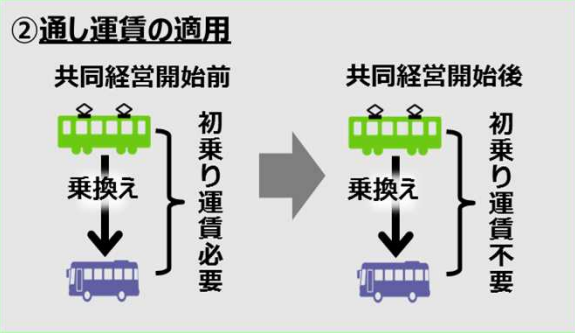
1．申請者
徳島バス株式会社及び四国旅客鉄道株式会社

2．対象路線
徳島バス　室戸・生見・阿南大阪線　JR牟岐線　「阿南駅～阿波海南駅」
（令和５年５月２０日から共同経営の対象とする路線を拡大）

3．共同経営の内容
徳島県南部地域の利便性を向上させ、共同経営の対象となる路線の増収を図ることを目的として、以下の取組を実施

①ＪＲ乗車券類にて徳島バス途中乗降区間の利用を可能とする。
②鉄道とバスを乗継ぐ場合、ＪＲ乗車券類による通し運賃を適用する。





4．共同経営の実施期間
令和４年４月１日～令和９年３月３１日

徳島県南部における共同経営計画（並行モード連携モデル）

四国運輸局

取組の効果

- 運賃面での連携により、バスと鉄道の双方を同じ地域旅客運送サービスとして利用することが可能となるため、移動手段の選択肢が広がり、利便性が向上する。
- 利用者の増加に伴う増収により交通事業者の経営力を向上し、基盤的サービスの提供の維持に繋げる。

◆ 徳島県南部地域の交通サービスの利便性向上

（阿南駅の例）同じ運賃体系で利用可能な交通サービス

【運行本数増と同等の効果】

- バスと鉄道を同条件で利用することが可能となり、徳島県南部地域において同じ運賃体系で利用可能な南北軸の交通サービスの運行本数の増加と同等の効果が生じる。

【平均運行間隔の短縮】

- 上下線ともに同じ運賃体系で利用可能な交通サービスの平均運行間隔が20分以上短縮となる。

◆ 交通事業者の経営力の強化

徳島県南部地域における公共交通の利便性向上に伴う利用増等により、利用者の確保を見込む

基盤的サービスの維持